

第57回

税に関する高校生の作文

東京
国税局長
賞

日本大学藤沢高等学校 1年 石田 奈々子

税を通して支え合う私たち

夏休み中に部屋を片付けようと思い、クローゼットの奥にある大きな箱を引っ張り出してみると、小中学生のときの教科書やノートが箱いっぱい詰まっていた。その中の一冊を手にとって見るとどこか違和感を覚え、高校の教科書と比較してみた。すると、小中学校の教科書には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という言葉があった。

義務教育の九年間、私がこの言葉の意味を深く考えたことはあっただろうか。「私たちは税金のおかげで教科書を使うことができている。」頭では分かっていたけど、正直「無料で貰えるのが当たり前」というイメージになってしまっていた。しかし、高校に入ってそのイメージは覆された。「明日、教科書の購入があるからね。」と母から手渡された茶封筒には、一万円が数札入れられていた。そこで初めて、教科書一冊にどれほどの価値があるのかを理解できたと思う。無料で教科書を貰い授業を受けていたというわけではなく、それらすべてを税金が支えてくれていたのだ。

私が小学生だった時、小学校教師の伯母に、どうして

学校の先生は私たちがお金を払わなくても勉強を教えてくださいのかと尋ねたことがあった。その時伯母は、「奈々子が物を買ったりするときに払う税金が、めぐりめぐって私のお給料になるんだよ。だから、税金がなかったら私は生活できないんだよ。みんなが税金を通して私を支えてくれるから教師の仕事が続けられるんだ。そして、教師という存在があるから奈々子は教育を受けられるんだ。みんな支え合いの輪の中で生きているんだよ。」と言った。私には難しい言葉だったけれど、その言葉を聞いてから、「自分も誰かを支えている」という実感が少しづつ湧くようになったと思う。

税金に対して、以前は「高い」「払いたくない」というマイナスなイメージが多かった。しかし、ふり返ってみれば私は今まで何度も税金を支えられてきた。それは今までもこれからも同じだろう。それと同時に、税金を通して誰かの生活や日本の政治を支えている。税金は、私たち国民が日本の社会で、支え合いの輪を広げていくために必要不可欠だ。私は税金によって支えられていることへの感謝の気持ちを忘れず、支え合いの輪の中で何ができるかを考えていきたいと思う。

第52回

中学生の「税についての作文」

藤沢
税務署長
賞

茅ヶ崎市立梅田中学校 3学年 弦弓 羽菜

みんなで支え合うために

ここ数年、異常気象による日本全国の天災被害ニュースは増加している。今年の西日本豪雨でも、あまりに多くの場所で多くの人々が同時に被災した。自分と同じ中学生が学校へ行けなかったり、家族や住む場所を奪われているニュースが連日流れた。その景色を見ると、日々の当たり前が当たり前でなくなることを想像し恐ろしくなる。そして、何か手助けをしたくても何もできない自分、ただテレビのニュースを観て心配することしかできないことにモヤモヤとする。

そんな気持ちを家族にこぼすと、両親はこう言った。「私も2011年の東日本大震災の時には同じことを感じたよ。専門職として現地に行きたいけれど、幼児の子供二人を置いてはいけないう。もどかしい気持ちでニュースを見ていた。」そして続けて言う。「でもね、うちの家族も僅かながら協力できていることがあった、それが税金や寄付金なの。」と。すぐにピンとはこなかった。税金というと、学校や病院、社会福祉、ごみ収集などが自分のよく知っている税金の使い道だった。小さい頃から慣れ親しんだ公園の維持費や、最近では近所の曲がり角にミラーが付いて安全になった。そういえば、数年前は大雨が降ると家の前は大人の膝まで下水が上がっていたのに、気づくと改善されている。それも税金で下水整備がされた理由だと後から知った。

よく考えると、確かに豪雨被害時の救出や土砂撤去

に関わっている自衛隊や運搬費用も税金だ。首相が指示する「災害緊急対策」の活動にも税金は使われている。東日本大震災では「復興税」が組まれた。

このように、日常生活にかかる費用、災害費用、様々なことが税金で賄われているのに、なぜか税金のイメージはネガティブである。それは、「税金の無駄遣い」「消費税アップ」といった嬉しくないニュースや世論に触れているからだと思う。そして「仕方なく払う」といった強制、義務感を持つのは、税金について自分自身の関心や知識が浅く、実際の恩恵を深く考えたことがないからだと思う。

私は今まで、学校へ行くことも当たり前、ごみを集めてもらうことも、病院にかかれることも、水を飲めることも、いろんなことが当たり前で与えてもらっていた。恵まれていて絶望的に困ったことがないから、税金の必要性を感じてこなかったのだろう。被災したり、大きな病気をしたり、家族を失った人たちはきっと当たり前が当たり前でないことを知っている。税金によって救われたことが多くあったのだと思う。

今年もまだまだ台風がやってくる。地震や噴火・大雪など、この先どこで何が起こるかはわからない。その予防も救済も国民全体で支え合うために、税金は必要不可欠の資金だと感じた。